

臨時租稅措置 臨時租稅措置法

- 出シタル金額ヲ超ユルトキ
- 二 個人ノ營業ノ純益ガ六千圓以上ナルトキ
- 三 法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

〔施規〕一五・一六

第十三條 營業稅法第四條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付、同法第十條ノ規定ハ本法ニ依ル個人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付之ヲ準用ス

臨時利得稅法第六條及第七條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十三條ノ二 同一人ニ付第一條ノ二十、第一條ノ二十六及第八條ノ規定中二以上ノ規定ニ該當スル事由アルトキハ當該各規定中輕減又ハ免除額ノ最モ多額ト爲ルベキ一ノ規定ヲ適用ス（昭和十八年法律第七十號追加）

第十四條乃至第二十條 削除

第二十一條 政府ノ承認ヲ受ケ命令ヲ以テ定ムル樽以外ノ容器ニ容レタル黑糖及白下糖ハ之ヲ砂糖消費稅法第三條第一種甲ノ砂糖ト看做ス但シ分蜜シタルモノ、黑糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ竝ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

〔施規〕二一

第二十一條ノ二 削除（昭和十九年法律第七號ニ依リ制ル）

第二十二條 削除（同上）

第二十二條ノ二 耕作ヲ目的トスル土地（其ノ土地ニ附隨シテ利用セララルル土地ヲ含ム）ノ所有

營業稅法  
臨時利得  
稅法ノ規  
定準用  
輕減規  
定ノ場  
合

看做ス第  
一砂  
糖種  
甲ノ

耕地交換  
ノ場  
合ノ

免稅  
除稅ノ

企業整備  
等ニ因ル  
登記ニ對  
スル輕減  
稅ノ場  
合

權ノ交換ヲ爲シタル場合ニ於テハ交換ニ因ル所有權ノ取得又ハ交換ノ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ登録稅ヲ免除ス

前項ノ規定ハ永小作權ノ交換又ハ前項ノ土地ノ所有權ト永小作權トノ交換ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

〔施規〕二四

第二十二條ノ三 左ニ掲グル事項ガ法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十七年四月一日以後昭和二十年三月三十一日迄ニ企業整備ノ必要其ノ他命令ヲ以テ定ムル事

由ニ因リ爲サルル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ登記ノ登録稅ノ額ハ他ノ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外登録稅法ニ拘ラズ左ノ額ニ依ル但シ登録稅法ニ依リ算出シタル登録稅ノ額ガ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル（昭和十七年法律第五十六號追加、同十八年法律第七十號、同十九年法律第七號改正）

一 會社ノ設立

金錢出資ニ依ル拂込株金額及金錢ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込株金額及金錢以外ノ財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ一トノ合計額

二 會社資本ノ増加

金錢出資ニ依ル増資拂込株金額及金錢ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル増資拂込株金額及金錢以外ノ財産ヲ目的トスル株金以外ノ

臨時租稅措置 臨時租稅措置法



臨時租稅措置 臨時租稅措置法

- 出資ノ價格ノ千分ノ一トノ合計額
- 三 第二回以後ノ株金拂込  
毎回ノ金錢ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ一トノ合計額
- 四 會社ノ設立、資本増加若ハ第二回以後ノ株金拂込又ハ事業ノ設備若ハ事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得  
不動産又ハ船舶ノ價格ノ千分ノ三

〔施規〕二五

第二十二條ノ四 重要鑛物増産法第一條ノ二第一項ノ規定ニ依ル指定地域ニ於ケル指定鑛物ヲ目的トスル鑛區又ハ砂鑛區ニシテ事業ノ着手又ハ繼續ノ許可ヲ申請シテ不許可ト爲リタルモノニ對スル鑛區稅ノ稅率ハ鑛區稅法第二條第一項ノ規定ニ拘ラス同項ニ規定スル稅率ノ三分ノ一トス但シ當該鑛區又ハ砂鑛區ニ付使用權ノ設定アル場合ニ於テ使用鑛區ニ該當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ重要鑛物増産法第三條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ付亦同ジ

鑛區稅法第三條第三項ノ規定ハ事業ノ着手若ハ繼續ノ許可ト爲リタル年又ハ事業ノ着手若ハ繼續不許可ノモノニ付其ノ許可、重要鑛物増産法第三條ノ規定ニ依ル命令、使用權ノ設定若ハ消滅アリタル年ノ鑛區稅ノ計算ニ關シ、鑛區稅法第三條第二項ノ規定ハ事業ノ着手又ハ繼續不許可ノモノニ付其ノ許可、重要鑛物増産法第三條ノ規定ニ依ル命令又ハ使用權ノ設定アリタルニ因リ不足セル鑛區稅ノ徵收ニ關シ之ヲ準用ス

鑛區稅ノ輕減

納稅資格要件  
樺太ニ於ケル特例

経過規定

第二十三條 本法ニ依リ輕減又ハ免除セララルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス(昭和十五年法律第五十四號、同十八年法律第七十號改正)

第二十三條ノ二 樺太ニ於テハ本法ノ施行ニ關シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得(昭和十五年法律第五十四號改正)

附則

- 第二十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二十五條 田畑地租ニ付テハ昭和十三年分ヨリ、營業收益稅中法人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分、個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ昭和十二年分營業收益稅ヨリ之ヲ適用ス
- 第二十六條 鑛產稅及特別鑛產稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス
- 第二十七條 昭和十三年分ノ特別砂鑛區稅ニ付テハ昭和十三年四月以後ノ月割ヲ以テ其ノ稅額ヲ計算シ同年五月三十一日迄ニ之ヲ納付セシム
- 第二十八條 左ニ掲グル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
  - 一 本法施行前消費稅ヲ課スベカリシモノ
  - 二 本法施行前輸出若ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テ又ハ織物消費稅法第七條ノ規定ニ依リテ消費稅ヲ納付セズシテ製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタルモノ
  - 三 本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ
  - 四 本法施行前消費稅ヲ納付シテ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ

臨時租稅措置 臨時租稅措置法



施行期間

**第二十九條** 本法施行前消費稅ヲ納付シタル織物ニシテ本法ニ依リ消費稅ヲ課セザルコトト爲リタルモノ又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ本法施行後輸出シ又ハ朝鮮ニ移出スルモ織物消費稅法第三條第二項ノ規定及大正九年法律第五十一號ヲ適用セズ

**第三十條** 本法ハ大東亞戰爭終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス（昭和十七年法律第九號改正）

附 則（昭和十四年法律第五十號）

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一種所得稅、法人ノ營業收益稅及法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ本法ヲ適用ス

左ニ掲グル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

- 一 本法施行前消費稅ヲ課スベカリシモノ
  - 二 本法施行前輸出若ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テ又ハ織物消費稅法第七條ノ規定ニ依リテ消費稅ヲ納付セズシテ製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタルモノ
  - 三 本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ
  - 四 本法施行前消費稅ヲ納付シテ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ
- 本法施行前消費稅ヲ納付シタル織物ニシテ第二十一條又ハ第二十二條ノ改正規定ニ依リ消費稅ヲ課セザルコトト爲リタルモノ又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ本法施行後輸出シ又ハ朝鮮ニ移出ス

経過期定

ルモ織物消費稅法第三條第二項ノ規定及大正九年法律第五十一號ヲ適用セズ

附 則（昭和十五年法律第五十四號）

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人稅及法人ノ營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ所得稅及營業稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第一條ノ六ノ規定中分類所得稅ニ關スルモノハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十五年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅及特別鑛產稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ昭和十五年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛物又ハ鑛產物ニ付改正前ノ第十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ昭和十二年中ニ於ケル鑛物又ハ鑛產物ノ產出數量ノ十二分ノ三ニ相當スル數量ヲ以テ同條ニ規定スル昭和十二年中ニ於ケル產出數量ト看做ス昭和十四年分以前ノ田畑地租、昭和十四年分以前ノ個人ノ營業收益稅及昭和十五年分以前ノ特別鑛區稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則（昭和十七年法律第五十六號）

本法ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ十五ノ規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シ第二十一條ノ二ノ規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

各事業年度ノ所得ニ對スル法人稅、法人ノ各事業年度ノ純益ニ對スル業稅及法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十七年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅及法人ノ



清算純益ニ對スル營業稅ニ付テハ第一條ノ十七ニ規定スル場合ヲ除クノ外同日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス  
昭和十七年一月一日前ニ支出シタル寄附金及同日以後ニ支出スル寄附金ニシテ同日前ノ約束ニ係ルモノニ付テハ第一條ノ十六第一項ノ規定ニ拘ラズ寄附金審査委員會ノ諮問ヲ經テ法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上其ノ全部又ハ一部ヲ損金ニ算入スルコトヲ得

附則 (昭和十八年法律第七十號)

本法ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條ノ四及附則第六項ノ規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十八年五月二十九日勅令第五百七十七號ヲ以テ昭和十八年六月一日ヨリ施行)  
第一條ノ四ノ改正規定ハ法人ノ昭和十八年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

第一條ノ六ノ改正規定ハ法人ノ昭和十八年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅ヨリ、個人ノ昭和十九年分ヨリ之ヲ適用ス

第一條ノ二十三、第一條ノ二十六、第一條ノ二十七及第十三條ノ二ノ改正規定ハ個人ノ昭和十八年分所得稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

第一條ノ二十五ノ改正規定ハ個人ノ昭和十九年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

附則 (昭和十八年法律第九十五號企業整備資金措置法)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十八年七月一日勅令第六百六十二號ヲ以テ昭和十八年七月十五日ヨリ施行)

附則 (昭和十九年法律第七號所得稅法外二十九法律中改正法律抄録)

第三十一條 本法ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス (但書省略)

第三十二條 (第一項乃至第六項省略)

臨時租稅措置法第一條ノ二ノ改正規定ハ法人ノ昭和十九年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅ヨリ之ヲ適用ス  
臨時租稅措置法第一條ノ四ノ改正規定ハ法人ノ昭和十八年十月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ、個人ノ昭和十九年分ノ所得稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

臨時租稅措置法第一條ノ五ノ改正規定ハ法人ノ昭和十九年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅ヨリ、個人ノ昭和十九年分ノ分類所得稅ヨリ之ヲ適用ス  
臨時租稅措置法第一條ノ十七ノ改正規定ハ法人ノ昭和十九年一月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル法人稅ヨリ之ヲ適用ス

臨時租稅措置法第一條ノ二十五、第一條ノ三十一及第一條ノ三十六ノ改正規定ハ個人ノ昭和十九年分ノ山林ノ所得ニ對スル所得稅及讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス  
臨時租稅措置法第一條ノ二十九及第一條ノ三十四ノ改正規定ハ法人ノ各事業年度ノ所得ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十九年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ同日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ之ヲ適用ス



○臨時租稅措置法施行規則（昭和十三年四月一日大藏省令第二十一號）

改正 昭和十四年藏令一三號、同十九年藏令一九號、同一五年藏令一一號、同年藏令四七號、同年藏令六二號、同十八年藏令第五號、同年藏令六二號、同年藏令四一號

第一條 法人が各事業年度ノ所得中別表ニ掲グル事業ノ用ニ供スル設備（船舶ヲ含ム）ノ新設、擴張若ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テ又ハ國債證券（國債貯金ヲ含ム）以下本令ニ於テ同ジ、地方債證券、興業債券

（臨時資金調整法第六條第四項ノ規定ニ依リ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付政府ノ保證アルモノニ限ル）其ノ他大藏大臣ノ指定シタル有價證券ヲ取得スルニ要スル資金ニ充テタルトキハ臨時租稅措置法第一條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ運用金額ノ百分ノ三十二ニ相當スル金額ヲ當該事業年度ノ所得ヨリ控除シテ法人稅ヲ賦課ス（昭和十九年藏令第四十一號改正）

前項ノ規定ニ依リ指定シタル有價證券ハ大藏大臣之ヲ告示ス（同上第三項前ル）

第一條ノ二 法人が各事業年度ノ所得中前條ニ定ムル新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ利益金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「設備擴張留保金」勘定（貸方勘定）ニ繰入ルベシ（同上）

第一條ノ三 法人が各事業年度ノ所得中第一條ニ定ムル有價證券ノ取得ニ要スル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ利益金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「證券保有留保金」勘定（貸方勘定）ニ繰入ルベシ（同上）

前項ノ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ以テ第一條ニ規定スル有價證券ヲ取得シタルトキハ「指定證券運用」勘定（借方勘定）ヲ設ケ他ノ財産ト分別シテ之ヲ計理スベシ

第一條ノ四 「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ左ノ期間内ニ各所定ノ運用ノ爲ニ支出スルコトヲ要ス

一 「設備擴張留保金」勘定繰入金額ニ付テハ其ノ繰入レタル利益金ノ屬スル事業年度終了ノ日ヨリ二年

二 「證券保有留保金」勘定繰入金額ニ付テハ其ノ繰入レタル利益金ノ屬スル事業年度終了ノ日ヨリ六月

第一條ノ五 法人が前條ニ定ムル期間内ニ於テ「設備擴張留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ「設備擴張留保金」勘定ニ振替ヘ其ノ金」勘定ニ振替ヘ又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ「設備擴張留保金」勘定ニ振替ヘ其ノ運用ノ方法ヲ變更セントスルトキハ稅務署長ノ承認ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ振替ヘタル金額ヲ直ニ變更後ノ運用ノ爲ニ支出スルコトヲ要ス

法人が「指定證券運用」勘定ヲ以テ分別計理シタル有價證券ヲ處分シ設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ノ支出ニ充テントスルトキハ稅務署長ノ承認ヲ受クベシ

第一條ノ六 「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ニシテ第一條ノ四ニ定ムル期間内ニ各所定ノ運用ノ爲ニ支出セザリシモノアルトキハ當該支出セザリシ金額ノ百分ノ三十二ニ相當スル金額ヲ所得ニ加算ス前條第一項ノ場合ニ於テ直ニ變更後ノ運用ノ爲ニ支出セザリシ金額アル、キ亦同ジ（同上）

「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ以テ取得シタル有價證券ヲ處分シタルトキ又ハ有價證券ニ付元本ノ償還アリタル後直ニ之ニ代ルベキ有價證券ヲ取得セザリシトキハ當該有價證券ノ取得ニ要シタル金



額ノ百分ノ三十ニ相當スル金額ヲ所得ニ加算ス但シ其ノ處分ニ付稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ(同上)

前二項ノ規定ニ依リ所得ニ加算スベキ金額ハ第一條ノ四ニ定ムル期間滿了ノ日又ハ有價證券ヲ處分シ若ハ有價證券ニ付元本ノ償還アリタル日ノ屬スル事業年度ノ所得ニ加算ス(同上)

第一條ノ七 法人稅ヲ課スベキ所得ト其ノ他ノ所得ト有スル法人ノ臨時租稅措置法第一條ノ二ニ規定スル各事業年度ノ所得ハ所得總額ニ對スル法人稅ヲ課スベキ所得ノ割合ヲ各事業年度ノ所得ニ乗ジテ算出シタル金額トス(同上)

第一條ノ八 臨時租稅措置法第一條ノ二ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ハ「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額及其ノ運用豫定計畫ヲ記載シタル書類ヲ添附シ法人稅法第十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(同上)

第一條ノ九 臨時租稅措置法第一條ノ二ノ規定ノ適用ヲ受ケタル法人ハ「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ニ付每事業年度其ノ運用明細書ヲ法人稅法第十八條ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ提出スベシ(同上)

第一條ノ十 臨時租稅措置法第一條ノ三ノ規定ニ依リ所得稅、法人稅及營業稅ノ免除ヲ受クベキ製造、採掘又ハ採取ノ事業ノ設備ノ増設ハ製造事業ニ在リテハ昭和十四年四月一日以後ニ爲シタル設備ノ増設、採掘又ハ採取ノ事業ニ在リテハ昭和十五年四月一日以後爲シタル設備ノ増設ニシテ増設前ノ製造又ハ產出能力ニ對シ十分ノ三以上ニ相當スル製造又ハ產出能力ヲ増加シタルモノニ限ル  
前項ノ規定ニ該當スル設備ノ増設ヲ爲シタル製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムベキ

事實アル者ハ其ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ノ設備ノ増設ニ付所得稅、法人稅及營業稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス

第一條ノ十一 臨時租稅措置法第一條ノ三ノ規定ニ依リ所得稅、法人稅及營業稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條若ハ法人稅法第十八條又ハ營業稅法第十五條若ハ第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ増設シタル設備ニ依ル製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ他ノ所得又ハ純益ト有スルトキハ其ノ増設シタル設備ニ依ル製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ他ノ所得又ハ純益ト有スル區別シタル計算書ヲ添付スベシ

第一條ノ十二 資本的支出ニ充ツル爲交付セラレタル國庫補助金ノ收入ニシテ資本的支出ニ充テタル部分ノ金額ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ益金又ハ收入金額ニ算入セズ(同上)

前項ノ場合ニ於テ法人ガ其ノ資本的支出ニ充テタル部分ノ金額ヲ資產トシテ計算シタルトキハ法人ニ對スル法人稅、營業稅及臨時利得稅ノ課稅ニ關シテハ之ヲ資產トシテ計算セザリシモノト看做ス(同上)

第一條ノ十三 別表ニ掲グル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出金額(土地ニ關スル支出金額ヲ除ク)ニシテ昭和十四年四月一日以後支出シタルモノハ資本的支出ニ屬スル場合ニ於テモ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入ス  
前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス(同上、第三項ヲ削ル)

第一條ノ十四 第一條ノ十二又ハ前條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條若ハ法人稅法第



十八條、營業稅法第十五條若ハ第十六條又ハ臨時利得稅法第十五條若ハ第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(同上)  
前項ノ申請書ニハ國庫補助金ノ收入及支出ニ關スル明細書又ハ研究ノ目的及研究ヲ爲スニ要シタル支出ノ詳細ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ(同上)

第一條ノ十五 別表ニ掲グル事業ノ用ニ供スル建物(工場用以外ノ建物ヲ除ク)、機械其ノ他ノ設備及船舶ニシテ昭和十六年四月一日以後新設、増設又ハ製造シタルモノニ付耐用年數ニ依リ算出シタル償却金額ニ其ノ十分ノ二ニ相當スル金額ヲ加算シタル金額以内ノ償却額ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ償却金額ハ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金又ハ必要ノ經費ニ算入ス(同上)

前項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ償却ニ關スル明細書ヲ添附シ所得稅法第三十四條、法人稅法第十八條、營業稅法第十五條若ハ第十六條又ハ臨時利得稅法第十五條若ハ第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(同上)

第一條ノ十六乃至第一條ノ十八 削除(昭和十九年敕令第四十二號削除)

第一條ノ十九 臨時租稅措置法第一條ノ六ノ規定ニ依リ左ノ鑛物ヲ指定ス

- 一 金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、滿鑛他、ニツケル鑛、水銀鑛及クロム鐵鑛
- 二 石油及石炭

第一條ノ二十 臨時租稅措置法第一條ノ六ノ規定ニ依ル輕減稅額算出ノ基礎タル法人ノ鑛業ヨリ生ズル所得金額ニハ法人稅法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザルモノノ金額ハ之ヲ算入セズ(昭和十九年敕令第

四十一號改正)

臨時租稅措置法第一條ノ六ノ規定ニ依ル輕減稅額算出ノ基礎タル個人ノ鑛業ヨリ生ズル所得金額ハ其ノ者ノ所得稅法第十七條ノ規定ニ依ル控除前ノ甲種ノ事業所得金額ニ對スル同控除後ノ甲種ノ事業所得金額ノ割合ヲ其ノ者ノ鑛業ヨリ生ズル所得金額ニ乘ジ之ヲ計算ス(同上)

前項ノ鑛業ヨリ生ズル所得金額ニハ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザルモノノ金額ハ之ヲ算入セズ(同上)

第一條ノ二十一 臨時租稅措置法第一條ノ六ノ規定ニ依リ分類所得稅又ハ法人稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條又ハ法人稅法第十八條ノ規定ニ依ル申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第一條ノ二十二 事業ノ經營ヲ主タル目的トスル同族會社ニシテ臨時租稅措置法第一條ノ七ノ規定ノ適用ヲ受クベキモノヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 事業ノ經營ニ直接關係ナキ資産(保全資産ト稱ス以下同ジ)ノ價額ガ其ノ總資産價額ノ百分ノ三十以下ナル同族會社
  - 二 保全資産ノ價額ガ其ノ總資産價額ノ百分ノ三十ヲ超エ同百分ノ四十以下ニシテ事業ヨリ生ズル所得(事業所得ト稱ス以下同ジ)ノ金額ガ總所得金額ノ百分ノ五十ヲ超ユル同族會社
  - 三 保全資産ノ價額ガ其ノ總資産價額ノ百分ノ四十ヲ超エ同百分ノ五十以下ニシテ事業所得ノ金額ガ其ノ總所得ノ百分ノ七十ヲ超ユル同族會社
- 第一條ノ二十三 生命保險會社ノ所有スル株式ヨリ生ズル甲種ノ配當利子所得ニシテ臨時租稅措置法第一條ノ八ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ輕減スベキモノハ同法ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル主務官廳ノ



證明書ヲ當該配當利子所得ノ支拂確定前所轄稅務署長ヲ經由シ其ノ支拂者ニ届出タルモノニ限ル

第一條ノ二十四 大藏大臣ノ指定スル法人ノ設定シタル價格平衡資金ヘノ繰入金ハ法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前項ノ規定ニ依リ指定シタル法人ハ大藏大臣之ヲ告示ス(昭和十七年大藏省令第十一號追加)

第一條ノ二十五 前條ノ規定ニ依ル價格平衡資金ヘノ繰入金ハ主務官廳ノ認可ヲ受ケタル一定ノ標準ニ基キ當該事業年度ノ損金トシテ之ヲ「價格平衡資金」勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ

前項ノ「價格平衡資金」勘定ニ繰入レタル金額ニシテ價格平衡ノ爲支出シタル金額ヲ控除シタル殘額ハ公債若ハ社債ノ取得又ハ預金部若ハ銀行ヘノ預金ニ運用スルコトヲ要ス

「價格平衡資金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ以テ前項ノ有價證券ヲ取得シ又ハ預金ヲ爲シタルトキハ「價格平衡資金運用」勘定(借方勘定)ヲ設ケ他ノ財産ト分別シテ之ヲ計理スベシ(同上)

第一條ノ二十六 「價格平衡資金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ前條第二項ニ規定スル有價證券ノ取得又ハ預金以外ニ運用シタルトキハ其ノ運用金ニ相當スル金額ヲ運用ノ日ノ屬スル事業年度ノ益金ニ算入ス

「價格平衡資金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ其ノ目的以外ニ支出シタルトキ又ハ其ノ目的ノ爲支出セズシテ解散シタルトキハ其ノ支出金又ハ繰入金ニ相當スル金額ヲ支出ノ日又ハ解散ノ日ノ屬スル事業年度ノ益金ニ算入ス(同上)

第一條ノ二十七 第一條ノ二十四ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ハ當該事業年度ニ於テ「價格平衡資金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ記載シタル申請書ヲ法人稅法第十八條、營業稅法第十五條又ハ臨時利得稅法第十五條ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ「價格平衡資金」勘定ノ收支及運用ニ關スル明細書ヲ添附スベシ(同上)

第一條ノ二十八 個人ノ銀行定期預金ノ利子又ハ合同運用信託(所得稅法施行規則第三十三條ニ規定スルモノニ限ル)ノ利益ニシテ預ケ入又ハ信託ノ期間ヲ三年以上約シタルモノ(契約ノ更新ニ依リ三年以上繼續スルコトヲ約シタルモノヲ含ム)ノ利子又ハ利益ニ付テハ臨時租稅措置法第一條ノ九ノ規定ニ依リ當該金額ニ百分ノ五ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス契約ノ更新ニ依リ繼續シタル銀行定期預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニ在リテハ最初ノ預ケ入又ハ信託ノ日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ於テ支拂ヲ受クル利子又ハ利益ニ付亦同ジ(昭和十九年藏令第四十一號改正)

前項ノ規定ハ所得稅法第二十一條第四項及第二十二條第一項第四號ニ規定スル銀行定期預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニ付テハ之ヲ適用セズ(同上)

第一項ノ規定ニ依リ銀行定期預金又ハ合同運用信託ノ利子又ハ利益ニ付分類所得稅ノ輕減ヲ受ケタルモノガ其ノ契約ノ日ヨリ三年以内ニ於テ全部又ハ一部ノ元本ノ拂戻ヲ受クルトキハ當該元本ヨリ生ジタル利子又ハ利益ニ付輕減ヲ受ケタル分類所得稅額ニ相當スル金額ヲ其ノ拂戻ノ際支拂者ニ於テ之ヲ徵收ス(同上)

第一條ノ二十九 明治三十九年法律第三十四號又ハ社債等登錄法ニ依リ登錄シタル國債又ハ國債以外ノ公債若ハ社債ノ利子ニシテ登錄ノ期間ヲ三年以上約シタルモノ又ハ登錄シタル日ヨリ起算シ三年以後ニ於テ支拂ヲ受クルモノニ付テハ臨時租稅措置法第一條ノ九ノ規定ニ依リ利子金額ノ百分ノ五ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス(同上)

郵便官署ニ保管ヲ委託シタル公債又ハ社債ノ利子ニシテ保管ノ期間ヲ三年以上約シタルモノ又ハ保管ヲ委託シタル日ヨリ起算シ三年以後ニ於テ支拂ヲ受クルモノニ付テハ臨時租稅措置法第一條ノ九ノ規定ニ依リ



利子金額ノ百分ノ五ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス(同上)

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス(同上)

第一條ノ三十 銀行ニ對スル銀行ノ預金ノ利子ニ付テハ臨時租稅措置法第一條ノ十一ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ免除ス(同上)

第一條ノ三十一 臨時租稅措置法第一條ノ十二ノ規定ノ適用ヲ受クベキ公債又ハ社債ノ利子ハ當該公債又ハ社債ヲ供託シタル期間内ニ生ジタルモノニ限ル

第一條ノ三十二 貯蓄銀行及貯蓄銀行業務ヲ營ム銀行臨時租稅措置法第一條ノ十二ノ規定ノ適用ヲ受ケントスルトキハ當該公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル際貯蓄銀行法第九條第一項又ハ昭和十八年法律第四十三號第二條第一項ノ規定ニ依リ供託シタル公債又ハ社債ノ利子ナル旨ヲ利子支拂ノ取扱者ニ告知スベシ(昭和十七年敕令第十一號追加、同十九年敕令第四十一號改正)

前項ノ告知ニハ供託シタル期間内ニ生ジタル利子額ト供託セザリシ期間内ニ生ジタル利子額トニ區分シタル明細書ヲ添付スベシ(昭和十七年敕令第十一號追加)

第一條ノ三十三 臨時租稅措置法第一條ノ十三及第一條ノ三十四ノ規定ニ依リ左ノ金融機關ヲ指定ス(同上、昭和十九年敕令第四十一號改正)

- 一 生命保險會社
- 二 無盡會社

第一條ノ三十四 所得稅法第二十一條第四項ニ規定スル預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニ付テハ臨時租稅措置法第一條ノ十ノ規定ニ依リ百分ノ四・〇三〇七一ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス(昭和十九年敕令

第四十一號改正)

第一條ノ三十五 臨時租稅措置法第一條ノ十三ノ規定ノ適用ヲ受クベキ公債又ハ社債ノ利子ハ當該公債又ハ社債ヲ登錄シタル期間内ニ生ジタルモノニ限ル(昭和十七年敕令第十一號追加)

第一條ノ三十六 臨時租稅措置法第一條ノ十四ノ規定ノ適用ヲ受クベキモノハ大藏大臣ノ指定スル法人ノ株式又ハ出資ニシテ昭和十七年四月一日以後ノ拂込又ハ出資ニ係ルモノニ對スル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ限ル但シ當該株式又ハ出資ニ對スル配當率年七分ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラズ(同上)

前項ノ規定ニ依リ指定ヲ受ケントスル法人ハ其ノ旨所轄稅務署長ヲ經由シ大藏大臣ニ申請スベシ(昭和十九年敕令第四十一號改正)

第一項ノ規定ニ依リ指定シタル法人ハ大藏大臣之ヲ告示ス(同上)

第一條ノ三十七 法人ノ爲シタル寄附金中國防獻金及恤兵金ヲ除ク金額ガ左ニ掲グル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過金額ハ法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ(昭和十五年敕令第十一號追加)

- 一 資本金額百萬圓以下ノ法人ナルトキ  
當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ三ヲ乘ジテ算出シタル金額ト當該事業年度ノ所得金額ニ百分ノ二・五ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ二分ノ一ニ相當スル金額
- 二 資本金額千萬圓以下ノ法人ナルトキ  
當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ二・五ヲ乘ジテ算出シタル金額ト當該事業年度ノ所得金額ニ百分ノ二・五ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ二分ノ一ニ相當スル金額



三 資本金額千萬圓ヲ超ユル法人ナルトキ

當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ト當該事業年度ノ所得金額ニ百分ノ二・五ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

第一條ノ三十八 前條ノ資本金額ハ法人税法第七條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

前條ニ規定スル當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ三ヲ乘ジテ算出シタル金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ當該事業年度ノ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ千分ノ三ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ前條ニ規定スル當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ二・五ヲ乘ジテ算出シタル金額又ハ當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス(同上)

第一條ノ三十九 第一條ノ三十七ニ規定スル所得金額ハ法人税法第四條第一項及第二項ノ規定ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

法人ガ當該事業年度ニ於テ支出シタル又ハ支出スベキ寄附金(國防獻金及恤兵金ヲ除ク)ハ前項ノ所得金額計算上之ヲ損金ニ算入セズ(同上)

第一條ノ四十 臨時租稅措置法第一條ノ十六第二項ノ規定ニ依リ法人税ノ免除ヲ受ケントスル法人ハ法人税法第十八條ノ規定ニ依ル申告ノ時迄ニ寄附金額、寄附先、寄附日又ハ寄附豫定日其ノ他參考事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署長ヲ經由シ大藏大臣ニ申請スベシ(同上、昭和十九年敕令第四十一號改正)前項ノ申請アリタル場合ニ於テ大藏大臣必要アリト認ムルトキハ寄附金審査委員會ノ諮問ヲ經テ當該寄附金額ノ全部又ハ一部ニ對スル法人税ヲ免除スルコトヲ得(同上)(昭和十七年大藏省令第六十二號改正)

第一條ノ四十一 臨時租稅措置法第一條ノ十七又ハ第一條ノ十九ノ事由ヲ定ムルコト左ノ如シ(昭和十九年敕令第四十一號改正)

一 防空ノ爲ノ分散疎開

二 軍事及公共ノ施設ニ充テラルル爲ノ讓渡

三 自作農創設維持事業ノ爲ノ讓渡

臨時租稅措置法第一條ノ十八、第一條ノ二十二又ハ第一條ノ二十八ノ事由ヲ定ムルコト左ノ如シ(同上)

一 前項各號ニ掲グル事由

二 企業整備資金措置法又ハ臨時資金調整法ノ規定ニ依リ特殊決濟ヲ爲シタル讓渡

臨時租稅措置法第一條ノ二十ノ事由ヲ定ムルコト左ノ如シ(同上)

一 第一項第一號及第二號ニ掲グル事由

二 徵用

臨時租稅措置法第一條ノ二十一ノ事由ヲ定ムルコト左ノ如シ(同上)

一 第一項各號ニ掲グル事由

二 第三項第二號ニ掲グル事由

第一條ノ四十二 臨時租稅措置法第一條ノ十七ノ規定ニ依リ清算所得ニ對スル法人税ノ輕減ヲ受ケントスル

法人ハ法人税法第十八條ノ申告ト同時ニ主務官廳ノ證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第一條ノ四十三 甲法人ガ企業整備ノ必要又ハ第一條ノ四十一第二項ニ掲グル事由ニ因リ乙法人ニ其ノ事業

ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ヲ出資シ其ノ出資ニ因リ取得シタル乙法人ノ株式(乙法人ニ對スル出資ヲ含



ム以下同ジ)ヲ財産目録ニ記載スル場合ニ於テ當該出資シタル設備又ハ權利其ノ他(出資資産ト稱ス以下同ジ)ノ出資直前ニ於ケル價額ニ相當スル價額ヲ附シ又ハ其ノ價額ヲ超エ當該株式ノ交付價額ニ滿タザル價額ヲ附シタルトキハ當該株式ノ交付價額ト當該記載價額トノ差額ハ出資ヲ爲シタル事業年度ニ於ケル法人税法ニ依ル所得、營業税法ニ依ル純益及臨時利得税法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ益金ニ算入セズ(昭和十七年議令第十一號追加、同十八年議令第十五號及第六十二號、同十九年議令第四十一號改正)

前項ノ出資資産ノ出資直前ニ於ケル價額ハ直前事業年度末ニ於ケル財産目録ニ記載セラレタル當該出資資産ニ屬スル財産ノ價額及當該事業年度ニ於テ取得シタル當該出資資産ニ屬スル財産ノ取得價額ノ合計額(乙法人ニ承繼セシメタル債務ノ承繼價額ヲ出資額ヨリ控除シテ乙法人ノ株式ノ交付ヲ受ケタルトキハ直前事業年度末ニ於ケル財産目録ニ記載セラレタル當該債務ノ價額及當該事業年度ニ於テ負擔シタル當該債務ノ價額ノ合計額ヲ控除ス)ニ依ル(昭和十七年議令第十一號追加)

甲法人ガ出資ニ因リ乙法人ノ株式ノ外金銭ヲ取得シタルトキ又ハ出資ニ因リ取得シタル乙法人ノ株式ノ一部ヲ當該事業年度ニ於テ處分シタルトキハ第一項ノ出資資産ノ出資直前ニ於ケル價額ハ出資額(乙法人ニ承繼セシメタル債務ノ承繼價額ヲ出資額ヨリ控除シテ乙法人ノ株式ノ交付ヲ受ケタルトキハ當該承繼債務ノ承繼價額ヲ控除ス以下同ジ)ニ對スル出資ニ因リ取得シタル金銭及處分シタル乙法人ノ株式ノ交付價額ノ合計額ヲ出資額ヨリ控除シタル殘額ノ割合ヲ前項ノ規定ニ依ル金額ニ乗ジテ算出シタル金額ニ依ル(同上)

第一條ノ四十四 前條ノ規定ハ法人ガ企業整備ノ必要又ハ第一條ノ四十一第二項ニ掲グル事由ニ因リ其ノ事業ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ヲ讓渡シ其ノ讓渡ニ因リ取得シタル左ニ掲グルモノヲ財産目録ニ記載スル場合ニ付之ヲ準用ス(昭和十七年議令第十一號追加、同十八年議令第十五號及第六十二號、同十九年議令第四十一號改正)

一 國債證券又ハ地方債證券

二 更生債券又ハ産業設備債券

三 社債證券(讓渡ヲ受ケタル法人ノ發行シタルモノニ限ル)

四 特殊預金又ハ特殊金錢信託

五 債務者特殊借入金、戰時金融庫特殊借入金又ハ政府特殊借入金

法人ガ前項ノ規定ニ依リ取得シタル國債證券、地方債證券、更生債券、産業設備債券又ハ社債證券ハ其ノ取得ノトキヨリ三年間之ヲ供託又ハ登録スベシ但シ稅務署長ノ承諾ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ(昭和十七年議令第十一號追加、同十八年議令第六十二號、同十九年議令第四十一號改正)

第一條ノ四十五 臨時租稅措置法第一條ノ十九ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ法令、法令ニ基ク命令又ハ

行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ企業整備ノ必要又ハ第一條ノ四十一第一項ニ掲グル事由ニ因リ合併又ハ解散シタル法人ノ株主又ハ社員ナルコトヲ證スル主務官廳ノ證明書ヲ當該配當利子所得ノ支拂確定前所轄稅務署長ヲ經由シ其ノ支拂者ニ届出ヅベシ(昭和十七年議令第十一號追加、同十九年議令第四十一號改正)

前項ノ届出ハ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ解散シタル法人ノ清算人ガ其ノ株主又ハ社員ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ハ臨時租稅措置法第一條ノ三十二ニ規定スル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ノ輕減

ノ場合ニ付之ヲ準用ス(昭和十九年議令第四十一號改正)

第一條ノ四十六 臨時租稅措置法第一條ノ二十又ハ第一條ノ二十一ノ營業ノ大部分ヲ廢止シタルトキハ其ノ廢止シタル營業ヨリ生ズル所得金額又ハ純益金額ガ輕減又ハ免除ヲ受クベキ年ノ決定ニ係ル營業所得金額



又ハ純益金額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ超ユル場合ニ限ル

第一條ノ四十七 個人ガ昭和十六年一月一日以後昭和二十年三月三十一日迄ニ營業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シ所轄稅務署ニ臨時租稅措置法第一條ノ二十ノ規定ニ依リ所得稅及營業稅ノ輕減又ハ免除ノ申請ヲ爲シタル時ハ申請アリタル後ニ到來スル各納期(申請シタル日ノ屬スル納期ヲ含ム)ニ於テ納付スベキ昭和十七年分乃至昭和二十年分ノ所得稅及營業稅ヲ輕減又ハ免除ス(昭和十八年藏令第十五號、同十九年藏令第四十一號改正)

第一條ノ四十八 前條ノ規定ニ依ル所得稅ノ輕減又ハ免除ノ基礎タル稅額ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル(昭和十九年藏令第四十一號改正)

一 分類所得稅額ハ所得金額ノ總額(乙種ノ配當利子所得、乙種ノ退職所得及清算取引所得ヲ除ク)ニ對スル廢止シタル營業ヨリ生ズル所得金額ノ割合ヲ徵收稅額(乙種ノ配當利子所得、乙種ノ退職所得及清算取引所得ニ對スル徵收稅額ヲ除ク)ニ乘ジテ之ヲ計算ス但シ所得金額ハ所得稅法第十七條、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依ル控除前ノ金額ニ依ル

二 綜合所得稅額ハ總所得金額(所得稅法第八條ニ規定スル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ヲ除ク)ニ對スル廢止シタル營業ヨリ生ズル所得金額ノ割合ヲ徵收稅額(所得稅法第八條ニ規定スル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ對スル徵收稅額ヲ除ク)ニ乘ジテ之ヲ計算ス

第一條ノ四十九 臨時租稅措置法第一條ノ二十一ノ規定ニ依ル乙種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅又ハ綜合所得稅ノ輕減又ハ免除ハ其ノ年分ノ所得金額決定當時ニ於テ現ニ俸給、給料、賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支給ヲ受クル者ニ付テハ之ヲ爲サズ(昭和十七年藏令第十一號追加)

第一條ノ五十 臨時租稅措置法第一條ノ二十一ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ其ノ年四月三十日迄ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(昭和十八年藏令第十五號、同十九年藏令第四十一號改正)

第一條ノ五十一 法人ガ額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シ其ノ額面ヲ超ユル金額ヨリ發行ノ爲ニ必要ナル費用ヲ控除シタル金額(額面超過金ト稱ス以下同シ)ヲ以テ發行ノ日ヨリ二年以内ニ別表ニ掲グル事業ノ用ニ供スル設備(船舶ヲ含ム)ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テ又ハ六月以内ニ第一條ニ規定スル有價證券ノ取得ニ要スル資金ニ充テタルトキハ其ノ部分ニ相當スル金額ハ法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ益金ニ算入セズ但シ額面超過金ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヲ超ユル部分ノ金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(昭和十八年藏令第十七號追加)

第一條ノ五十二 法人ガ額面超過金ヲ前條ニ規定スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テントスルトキハ額面超過金ノ拂込アリタル際其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「設備擴張留保金」勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ但シ商法第二百八十八條第二項ノ規定ニ依リ準備金ニ繰入レタル金額又ハ益金ニ算入セラレタル金額ニ相當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(同上)

第一條ノ五十三 法人ガ額面超過金ヲ以テ第一條ノ五十一ニ規定スル有價證券ノ取得ニ要スル資金ニ充テントスルトキハ額面超過金ノ拂込アリタル際其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「額面超過金證券運用」勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ但シ商法第二百八十八條第二項ノ規定ニ依リ準備金ニ繰入レタル金額又ハ益金ニ算入セラレタル金額ニ相當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(同上)

前項ノ準備金ニ繰入レタル金額中益金ニ算入セラレザリシ金額ニ相當スル金額及「額面超過金證券運用」勘定ニ繰入レタル金額ヲ以テ第一條ノ五十一ニ規定スル有價證券ヲ取得シタルトキハ「額面超過金證券運



用」勘定（借方勘定）ヲ設ケ他ノ財産ト分別シテ之ヲ計理スベシ

第一條ノ五十四 法人ガ第一條ノ五十一ニ規定スル期間内ニ於テ設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テタル金額ヲ有價證券ノ取得ニ要スル資金ニ充テ又ハ有價證券ノ取得ニ要スル資金ニ充テタル金額ヲ設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テントスルトキハ稅務署長ノ承認ヲ受クベシ（同上）  
法人ガ「額面超過金證券運用」勘定ヲ以テ分別計理シタル有價證券ヲ處分シ設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ノ支出ニ充テントスルトキハ稅務署長ノ承認ヲ受クベシ（同上）

第一條ノ五十五 額面超過金中益金ニ算入セラレザリシ金額ヲ第一條ノ五十一ニ規定スル期間内ニ各所定ノ運用ノ爲ニ支出セザリシトキハ其ノ部分ニ相當スル金額ニ付テハ同條ニ規定スル期間満了ノ日ノ屬スル事業年度ノ益金ニ算入ス（同上）

「額面超過金證券運用」勘定ヲ以テ分別計理シタル有價證券ヲ處分シタルトキ又ハ有價證券ニ付元本ノ償還アリタル後直ニ之ニ代ルベキ有價證券ヲ取得セザリシトキハ益金ニ算入セラレザリシ金額ニ相當スル金額ヲ有價證券ヲ處分シ又ハ有價證券ニ付元本ノ償還アリタル日ノ屬スル事業年度ノ益金ニ算入ス但シ其ノ處分ニ付稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ（同上）

第一條ノ五十六 第一條ノ五十一ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ハ額面超過金及其ノ運用豫定計畫ヲ記載シタル書類ヲ添附シ法人稅法第十八條、營業稅法第十五條又ハ臨時利得稅法第十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ（同上）

第一條ノ五十七 第一條ノ五十一ノ規定ノ適用ヲ受ケタル法人ハ每事業年度額面超過金ニ關スル運用明細書ヲ法人稅法第十八條、營業稅法第十五條又ハ臨時利得稅法第十五條ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ提出スベシ

シ（同上）

第一條ノ五十八 臨時租稅措置法第一條ノ二十二ノ規定ニ依リ控除スベキ金額ハ臨時利得稅法第十三條ノ三ノ規定ニ依ル控除前ノ金額ニ其ノ十分ノ二ヲ乘ジテ之ヲ計算ス（同上）

第一條ノ五十九 臨時租稅措置法第一條ノ二十二ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ臨時利得稅法第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ（同上、昭和十九年議令第四十一號改正）

第一條ノ六十 臨時租稅措置法第一條ノ二十三ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ（昭和十五年議令第十五號追加、同十九年議令第四十一號改正）

第一條ノ六十一 法人ガ臨時租稅措置法第一條ノ二十四ノ規定ニ依リ其ノ所有ニ係ル株式ヲ讓渡シ當該讓渡ニ因リ取得シタル金錢ノ總額（株式讓渡代金ト稱ス以下同ジ）ヲ以テ國債證券、其ノ他取得ニ付大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ株式讓渡ヲ爲シタル日ヨリ二月以内ニ取得シ之ヲ財産目録ニ記載スル場合ニ於テ當該讓渡シタル株式ノ讓渡直前ニ於ケル價額ニ相當スル價額ヲ附シ又ハ其ノ價額ヲ超エ當該有價證券ノ取得價額ニ滿タザル價額ヲ附シタルトキハ當該取得價額ト當該記載價額トノ差額ハ當該有價證券ヲ取得シタル事業年度ニ於ケル法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ益金ニ算入セズ（昭和十八年議令第十五號追加）

前項ノ讓渡シタル株式ノ讓渡直前ニ於ケル價額ハ直前事業年度末ニ於ケル財産目録ニ記載セラレタル當該讓渡株式ノ價額及當該事業年度ニ於テ取得シタル當該讓渡株式ノ取得價額ノ合計額ニ依ル（同上）  
株式讓渡代金ニシテ第一項ニ規定スル期間内ニ同項ニ規定スル有價證券ノ取得ノ爲ニ支出セザリシモノアルトキハ第一項ニ規定スル讓渡シタル株式ノ讓渡直前ニ於ケル價額ハ株式讓渡代金ニ對スル當該株式讓渡



代金ノ一部ヲ以テ取得シタル有價證券ノ取得價額ノ割合ヲ前項ノ規定ニ依ル金額ニ乗ジテ算出シタル金額ニ依ル(同上)

第一條ノ六十二 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ハ株式讓渡ニ關スル明細書ヲ添附シ法人税法第十八條、營業税法第十五條又ハ臨時利得税法第十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(同上)

第一條ノ六十三 臨時租稅措置法第一條ノ二十五ニ規定スル山林ノ當該立木ノ伐採又ハ讓渡ニ因リ生ズル所得ハ其ノ年分ノ山林ノ所得ヨリ昭和十七年中ノ山林ノ所得ヲ控除シテ之ヲ計算ス(昭和十九年藏令第四十一號改正)

前項ノ場合ニ於テ昭和十七年中ノ山林ノ所得ガ其ノ年分ノ山林ノ所得ノ二分ノ一未滿ナルトキ又ハ昭和十七年中ノ山林ノ所得ナキトキハ其ノ年分ノ山林ノ所得ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ以テ昭和十七年中ノ山林ノ所得トス(同上)

第一條ノ六十四 臨時租稅措置法第一條ノ二十五ノ規定ニ依リ控除スベキ金額ハ前條ノ規定ニ依リ計算シタル所得金額ニ其ノ十分ノ三ヲ乘ジテ之ヲ計算ス(同上)

第一條ノ六十五 臨時租稅措置法第一條ノ二十五ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ所得税法第三十四條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(昭和十八年藏令第十七號追加)

第一條ノ六十六 臨時租稅措置法第一條ノ二十六ノ規定ニ依ル所得稅ノ輕減ノ基礎タル稅額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル(同上、昭和十九年藏令第四十一號改正)

一 分類所得稅額ハ所得金額ノ總額(乙種ノ配當利子所得、乙種ノ退職所得及清算取引所得ヲ除ク)ニ對スル營業ノ所得金額ノ割合ヲ徵收稅額(乙種ノ配當利子所得、乙種ノ退職所得及清算取引所得ニ對スル徵

收稅額ヲ除ク)ニ乘ジテ之ヲ計算ス但シ所得金額ハ所得税法第十七條、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依ル控除前ノ金額ニ依ル

二 綜合所得稅額ハ總所得金額(所得税法第八條ニ規定スル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ヲ除ク)ニ對スル營業ノ所得金額ノ割合ヲ徵收稅額(所得税法第八條ニ規定スル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ對スル徵收稅額ヲ除ク)ニ乘ジテ之ヲ計算ス

第一條ノ六十七 臨時租稅措置法第一條ノ二十七ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ營業ノ所得、純益又ハ利益ニ關スル計算書ヲ添附シ營業ノ所得金額ノ減少シタル翌年一月三十一日迄ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(昭和十八年藏令第十五號追加)

第一條ノ六十八 稅務署長ハ臨時租稅措置法第一條ノ二十八ノ規定ニ依リ法人ガ其ノ事業ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ヲ企業整備ノ必要又ハ第一條ノ四十一第二項ニ掲グル事由ニ因リ讓渡シタル場合ニ於テ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ解散ヲ爲サザルトキハ讓渡ノ日以後ニ於テ納付スベキ分類所得稅又ハ讓渡ノ日以後ニ終了スル各事業年度分ノ法人稅、營業稅及臨時利得稅ヲ輕減スルコトヲ得(昭和十八年大藏省令第十七號追加、同年藏令第六十二號、同十九年藏令第四十一號改正)

第一條ノ六十九 法人ガ企業整備資金措置法第二十條ノ規定ニ依リ資産ノ評價換ヲ爲シ又ハ稅務署長ノ承認ヲ受ケ臨時租稅措置法第一條ノ十八ノ規定ノ適用ヲ受ケタル資産ノ評價換ヲ爲シ益金ヲ計上シタル場合ハ法人税法、營業税法及臨時利得税法ノ適用ニ關シテハ之ヲ評價換ヲ爲サザリシモノト爲ス  
前項ノ承認ヲ受ケントスル法人ハ資産ノ評價換前ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(昭和十八年藏令第十七號追加、同年藏令第六十二號改正)



第一條ノ七十 前條ノ規定ハ資産ノ評價換ヲ爲シタル事業年度ノ配當率ガ直前事業年度ノ配當率ヲ超ユル法人又ハ年六分ヲ超ユル法人(直前事業年度ノ配當率ニ比シ年二分以上減少シタルモノヲ除ク)ニ付テハ之ヲ適用セズ(昭和十八年敕令第十七號追加)

第一條ノ七十一 法人ガ合併又ハ解散ニ因リ消滅シタル場合ニ於テハ第一條ノ六十九ノ規定ノ適用ヲ受ケタル資産ノ評價換ニ因ル利益ニ相當スル金額ヲ合併又ハ解散ニ因ル清算所得又ハ清算純益ニ加算ス但シ當該評價換ニ因ル利益ニ相當スル金額中各事業年度ニ於テ法人税法ニ依ル所得、營業税法ニ依ル純益及臨時利得税法ニ依ル利益ニ算入セラレタル部分ニ相當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(同上)

第一條ノ七十二 政府特殊借入金ノ利子ニ付テハ臨時租稅措置法第一條ノ二十九ノ規定ニ依リ所得税法第二十一條ニ規定スル稅率百分ノ二十ヲ百分ノ十三トシタル場合ノ差減額ニ相當スル乙種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ輕減ス(同上、昭和十九年敕令第四十一號改正)

第一條ノ七十三 所得税法第三十條ノ規定ニ依リ個人ノ總所得ヲ計算スル場合ハ政府特殊借入金ノ利子ニ付テハ其ノ十分ノ三ヲ控除ス(昭和十八年敕令第六十二號追加、同十九年敕令第四十一號改正)

第一條ノ七十四 法人税法第四條ノ規定ニ依リ法人ノ各事業年度ノ所得ヲ計算スル場合ニ於テ法人ガ政府特殊借入金ヲ有スルトキハ政府特殊借入金ノ利子額中其ノ政府特殊借入金ヲ有シタル期間ノ利子額ノ百分ノ七十二ニ相當スル金額ヲ其ノ所得ヨリ控除ス但シ政府特殊借入金ヲ擔保トシ企業整備資金措置法第十四條第一項第二號ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ指定シタル金融機關ヨリ借入ヲ爲シタルトキハ其ノ擔保ニ供シタル期間ノ利子ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(昭和十八年敕令第六十二號追加)

前項ノ規定ハ銀行(日本銀行ヲ除ク)及第一條ノ三十三ニ規定スル金融機關ニ付テハ之ヲ適用セズ(昭和十

九年敕令第四十一號改正)

第一條ノ七十五 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ハ法人税法第十八條ノ申告ト同時ニ控除ヲ受クベキ利子額ニ關スル明細書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(昭和十八年敕令第六十二號追加)

第一條ノ七十六 事業ノ一部ヲ廢止又ハ休止シタル法人ニシテ臨時租稅措置法第一條ノ三十ノ規定ノ適用ヲ受クベキモノハ其ノ事業ノ百分ノ三十以上ヲ廢止又ハ休止シタルモノニ限ル(同上)

第一條ノ七十七 稅務署長ハ臨時租稅措置法第一條ノ三十ノ規定ニ依リ法人ガ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止若ハ休止シタルトキハ其ノ廢止若ハ休止ノ日以後ニ於テ納付スベキ分類所得稅又ハ廢止若ハ休止ノ日以後ニ終了スル各事業年度分ノ法人稅、營業稅又ハ臨時利得稅ヲ輕減スルコトヲ得(同上)

第一條ノ七十八 第一條ノ六十八又ハ前條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ハ法人税法第十八條、營業税法第十五條又ハ臨時利得稅法第十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(同上)

第一條ノ七十九 價格報獎制度ニ依ル特別價格報獎金ノ收入中留保シタル金額アルトキハ其ノ留保金額ノ百分ノ五十二ニ相當スル金額ヲ所得稅法ニ依ル所得、法人税法ニ依ル所得、營業税法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ益金又ハ收入金額ニ算入セズ(昭和十九年敕令第四十一號追加)

第一條ノ八十 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ特別價格報獎金ニ關スル明細書ヲ添附シ所得稅法第三十四條、法人税法第十八條、營業税法第十五條若ハ第十六條又ハ臨時利得稅法第十五條若ハ第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(同上)

第一條ノ八十一 臨時租稅措置法第一條ノ三十一ノ規定ニ依リ控除スベキ金額ハ所得稅法第二十條ノ規定ニ依ル控除前ノ金額ニ其ノ十分ノ三ヲ乘ジテ之ヲ計算ス(同上)



第一條ノ八十二 臨時租稅措置法第一條ノ三十一ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(同上)

第一條ノ八十三 稅務署長ハ臨時租稅措置法第一條ノ三十三ノ規定ニ依リ法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人(被合併法人ト稱ス以下本條ニ於テ同ジ)ノ株式ヲ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ消滅シタル他ノ法人ガ合併ノ爲合併前ニ取得シタルモノニシテ當該株式ヲ讓渡シタル被合併法人ノ株主ノ所得稅法第八條ニ規定スル利益ノ配當ニ對スル所得稅又ハ被合併法人ノ法人稅法ニ規定スル清算所得ニ對スル法人稅若ハ清算純益ニ對スル營業稅ニ付通脫ノ目的アリト認メタルトキハ株式ノ取得ニ要シタル金錢ヲ以テ被合併法人ノ株主ガ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル金錢ト看做シ所得稅法、法人稅法及營業稅法ノ規定ヲ適用ス(同上)

第一條ノ八十四 臨時租稅措置法第一條ノ三十五ノ規定ニ依リ清算剩餘金ニ對スル特別法人稅ノ輕減ヲ受ケントスル特別法人ハ特別法人稅法第十條ノ申告ト同時ニ主務官廳ノ證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(同上)

第一條ノ八十五 臨時租稅措置法第一條ノ三十六ノ規定ニ依リ控除スベキ金額ハ臨時利得稅法第十一條ノ三ノ規定ニ依ル控除前ノ金額ニ其ノ十分ノ三ヲ乘ジテ之ヲ計算ス(同上)

第一條ノ八十六 臨時租稅措置法第一條ノ三十六ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ臨時利得稅法第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(同上)

第一條ノ八十七 田畑自作ノ期間一年未滿ニシテ其ノ所得ガ一年分ノ所得ニ非ズト認メラルル場合ニ於テハ田畑地租ノ輕減ヲ受クベキ年ニ於ケル自作ノ時期ト同一ノ時期ニ付昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ニ

於テ自作ヲ爲シタルモノトシテ其ノ所得ヲ見積リ算出シ平常所得ヲ計算ス(昭和十九年勅令第四十一號改正)

第二條 田畑地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ毎年一月三十一日迄ニ土地所在ノ市町村(市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區、以下同ジ)ヲ經由シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ(昭和十九年勅令第四十一號改正)

前項ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番、地目、地積及賃賃價格ヲ記載シ田畑自作ノ所得及平常所得ノ計算書ヲ添附スベシ但シ申請者ガ自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ地目毎地積及賃賃價格ノ合計額ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ申請ヲ爲シタル後自作ヲ爲スニ至リタル田畑ニ付テハ其ノ際前二項ニ準ジ其ノ地租ノ輕減ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第三條 稅務署長ハ前條第一項ノ申請ヲ爲シタル者ノ田畑自作ノ所得ヲ調査シ其ノ年乙種ノ事業所得ノ金額ヲ決定スル時期ニ於テ之ヲ確定スベシ

第四條 第二條第一項ノ申請アリタル場合ニ於テ稅務署長其ノ年ノ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ二割五分以上減少セズト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第五條 稅務署長田畑地租ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納稅義務者及土地所在ノ市町村ニ通知スベシ

第六條 稅務署長第二條ノ申請ヲ受理シタル場合ニ於テ申請者ノ住所地ガ其ノ管轄區域内ニ在ラザルトキハ申請者ノ住所地方管轄スル稅務署長ニ協議シ之ガ處分ヲ爲スベシ

第七條 市町村ハ田畑地租ノ輕減額ヲ地租法第七十四條ノ例ニ準ジ稅務署長ニ報告スベシ

第八條 法人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ純益



ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス但シ第一次ノ事業年度ガ昭和十二年中ニ終了シタル法人ニ付テハ昭和十二年中ニ終了シタル事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ純益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第九條 法人ノ平常純益ヲ計算スルニ當リ營業稅ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ノ期間ガ昭和十一年以前三年内又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ期間ト異ル場合ニ於テハ昭和十一年以前三年内又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ純益ハ營業稅ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ之ヲ換算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ昭和十一年以前三年内又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ニ在リテハ之ヲ切捨テ營業稅ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ニ在リテハ之ヲ一月トス

第十條 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ平常純益ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ヲ合算シテ之ヲ計算ス

第十一條 個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ營業稅ノ輕減ヲ受クベキ年ノ營業ノ期間ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ノ純益ヲ算出シテ平常純益ヲ計算ス

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十二條 營業稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ營業稅法ニ依ル純益金額ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ平常純益ノ計算書ヲ添附スベシ

第十三條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ稅務署長其ノ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少セズ

ト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第十四條 稅務署長營業稅ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

前項ノ通知ハ營業稅法ニ依ル純益金額ノ決定通知書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十五條 臨時租稅措置法第十二條第一號ノ年六千圓ノ金額ハ事業年度ノ月數ヲ六千圓ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ依ル

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第十六條 臨時租稅措置法第十二條第一號ノ年百分ノ七ノ割合ノ金額ハ事業年度ノ月數ヲ基本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十七條乃至第二十條 削除

第二十一條 臨時租稅措置法第二十一條ノ規定ニ依リ稅務署長ノ承認ヲ受ケ罐、箱其ノ他類似ノ容器ニ容レタル黒糖及白下糖ハ之ヲ砂糖消費稅法第一種甲ノ砂糖ト看做ス

第二十一條ノ二 (昭和十九年敕令第四十一號ニ依リ創ル)

第二十二條及第二十三條 削除 (昭和十九年敕令第四十一號削除)

第二十四條 耕作ヲ目的トスル土地 (其ノ土地ニ附隨シテ利用セララルル土地ヲ含ム)ノ所有權ノ交換ヲ爲シタル場合ニ於ケル交換ニ因ル所有權ノ取得又ハ交換ノ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記ニシテ交換ガ左ニ掲グル條件ヲ具備スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ臨時租稅措置法第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ登録稅ヲ免除ス



- 一 交換が農地委員會又ハ國、北海道若ハ府縣ノ補助金ノ交付ヲ受ケテ設置セラレタル經濟更生委員會ノ斡旋ニ基クモノナルトキ
  - 二 交換地ノ雙方又ハ一方ガ自作地ナルコト
  - 三 交換地ノ價額ノ差ガ價額ノ多額ナル一方ノ十分ノ三以内ナルコト
- 前項ノ規定ハ永小作權ノ交換又ハ前項ノ土地ノ所有權ト永小作權トノ交換ヲ爲シタル場合ニ付之ヲ準用ス
- 第二十五條** 臨時租稅措置法第二十二條ノ三ノ規定ハ同條ニ掲グル事項ガ法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ企業整備ノ必要又ハ防空ノ爲ノ分散疎開ニ因リ爲サルモノナルコトニ付行政官廳ノ證明アルモノニ限り之ヲ適用ス(昭和十七年藏令第十一號追加、同十九年藏令第四十一號改正)

附則

本令ハ臨時租稅措置法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**第二條**ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三年ニ限り四月三十日トス

昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分營業收益稅ニ對スル第十二條ノ申請ハ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日以内、清算著手ノ場合ニ在リテハ二十日以内ニ之ヲ爲スベシ

個人ノ昭和十三年分營業收益稅ニ對スル第十二條ノ申請ハ昭和十三年四月十五日迄ニ之ヲ爲スベシ

本令施行前ヨリ引續キ臨時租稅措置法第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ新ニ織物消費稅ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製造スル者ハ本令施行後一月内ニ第二十三條ニ規定スル事項ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

附則(昭和十四年大藏省令第十三號)

本令ハ昭和十四年法律第五十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一種所得稅、法人ノ營業收益稅及法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ本令ヲ適用ス

第二十條ノ改正規定ハ昭和十四年分釐產稅ヨリ之ヲ適用ス

本令施行前ヨリ引續キ臨時租稅措置法第二十一條ノ改正規定ニ依リ新ニ織物消費稅ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製造スル者ハ本令施行後一月以内ニ第二十三條ノ改正規定ニ規定スル事項ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

附則(昭和十五年大藏省令第十九號)

本令ハ昭和十五年法律第五十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人稅及法人ノ營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ所得稅及營業稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第一條ノ二十及二十一ノ規定中分類所得稅ニ關スルモノハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十五年三月三十一日以前ニ產出シタル釐產物ニ對スル釐產稅及特別釐產稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十四年分以前ノ田畑地租、昭和十四年以前ノ個人ノ營業收益稅及昭和十五年分以前ノ特別砂鑛區稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則(昭和十七年大藏省令第十一號)

**第一條** 本令ハ昭和十七年法律第五十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十一條ノ二ノ規定ハ臨時租稅措置法第二十一條ノ二ノ規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時租稅措置法施行規則



**第二條** 各事業年度ノ所得ニ對スル法人稅、法人ノ各事業年度ノ純益ニ對スル營業稅及法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十七年一月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ臨時租稅措置法第一條ノ十七ニ規定スル場合ヲ除クノ外同日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本令ヲ適用ス

**第三條** 昭和十七年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ終了シタル事業年度分ニ付第一條ノ二十四ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ノ第一條ノ二十七第一項ニ規定スル申請書ハ同條第二項ノ規定ニ依ル大藏大臣ノ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

**第四條乃至第六條** 削除。(昭和十九年藏令第四十一號)

**第七條** 昭和十七年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ終了シタル事業年度分ニ付臨時租稅措置法第一條ノ十六第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ハ昭和十七年四月十五日迄ニ寄附金額、寄附先、寄附日其ノ他參考事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署長ヲ經由シ大藏大臣ニ申請スベシ

昭和十七年法律第五十六號附則第三項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ハ昭和十七年三月三十一日以前ニ

支出シタル寄附金ニ付テハ昭和十七年四月十五日迄ニ、昭和十七年四月一日以後ニ支出スル寄附金ニ付テハ其ノ法人稅法第十八條ノ規定ニ依ル申告ノ時迄ニ寄附金額、寄附先、寄附日又ハ寄附豫定日其ノ他參考事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署長ヲ經由シ大藏大臣ニ申請スベシ(昭和十九年藏令第四十一號改正)

**第八條** 昭和十六年一月一日以後昭和十七年三月三十一日以前ニ解散又ハ合併シタル法人ノ清算所得ニ付臨時租稅措置法第一條ノ十七ノ規定ノ適用ヲ受ケントスルモノハ第一條ノ四十一第二項ノ規定ニ依ル大藏大臣ノ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ主務官廳ノ證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スベシ(昭和十五年藏令

第十一號追加)

附 則 (昭和十七年藏令第四十五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年分所得金額又ハ純益金額決定後本令施行前ニ於テ營業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シタル個人ノ第一條ノ五十第一項ノ規定ニ依ル昭和十七年分所得稅又ハ營業稅ノ輕減又ハ免除ノ申請ハ本令施行後十四日以内ニ所轄稅務署ニ之ヲ爲スベシ

附 則 (昭和十七年藏令第六十二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適用ス

附 則 (昭和十八年藏令第十五號)

本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年一月一日以後同年二月末日迄ニ營業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シ昭和十八年四月二十日迄ニ所轄稅務署ニ臨時租稅措置法第一條ノ二十ノ規定ニ依リ所得稅及營業稅ノ輕減又ハ免除ノ申請ヲ爲シタル個人ニ付テハ昭和十七年分所得稅第四期分ヨリ所得稅及營業稅ヲ輕減又ハ免除ス

第一條ノ五十一乃至第一條ノ五十七ノ改正規定ハ法人ノ昭和十八年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

昭和十八年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ終了シタル事業年度分ニ付第一條ノ五十一ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ノ第一條ノ五十六ニ規定スル申請書ハ昭和十八年五月十五日迄ニ之ヲ所轄稅務署ニ申請ス



第一條ノ六十三乃至第一條ノ六十五ノ改正規定ハ個人ノ昭和十九年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス  
第一條ノ六十六及第一條ノ六十七ノ改正規定ハ個人ノ昭和十九年分所得稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

附則(昭和十八年敕令第六十二號)

本令ハ企業整備資金措置法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十八年勅令第五百六十二號ヲ以テ昭和十八年七月十五日ヨリ施行)

附則(昭和十九年敕令第四十一號)

第一條 本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 法人ノ各事業年度ノ所得ニ對スル法人稅、各事業年度ノ純益ニ對スル營業稅及法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十九年一月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、法人ノ清算所得ニ對スル法人稅及清算純益ニ對スル營業稅ニ付テハ同日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本令ヲ適用ス

第三條 第一條ノ十五ノ改正規定ハ法人ノ昭和十九年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ、個人ノ昭和二十年分所得稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

第四條 第一條ノ三十三及第一條ノ七十四ノ改正規定ハ法人ノ各事業年度ノ所得ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十九年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ同日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ之ヲ適用ス

第五條 第一條ノ五十ノ改正規定ハ個人ノ昭和二十年分所得稅ヨリ、第二條ノ改正規定ハ昭和二十年分田畑地租ヨリ之ヲ適用ス

第六條 第一條ノ七十九及第一條ノ八十ノ規定ハ法人ノ昭和十八年十月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

第七條 改正前ノ第一條ノ六ノ規定ニ依リ徵收シ又ハ徵收スベカリシ法人稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
第八條 昭和十八年度以前ノ一般會計又ハ特別會計歳出豫算ニ掲上セラレタル國庫補助金ノ收入ニ對スル所得稅、法人稅、營業稅及臨時利得稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第九條 昭和十九年四月一日前ニ支出シタル寄附金ニシテ改正前ノ第一條ノ四十ノ申請ハ仍從前ノ例ニ依ル  
第十條 昭和十九年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ終了シタル事業年度分ニ付第一條ノ改正規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ノ改正後ノ第一條ノ八ニ規定スル申請書ハ昭和十九年五月十五日迄ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第十一條 昭和十九年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ合併シ又ハ解散シシ法人稅法第十八條ノ申告書ヲ提出シタル法人ガ臨時租稅措置法第一條ノ十七ノ改正規定ニ依リ新ニ清算所得ニ對スル法人稅ノ輕減ヲ受ケルコトヲ得ルニ至リタルモノハ昭和十九年五月十五日迄ニ主務官廳ノ證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第十二條 昭和十九年一月一日以後同年二月末日迄ニ營業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シ昭和十九年四月二十日迄ニ所轄稅務署ニ臨時租稅措置法第一條ノ二十ノ規定ニ依リ所得稅及營業稅ノ輕減又ハ免除ノ申請ヲ爲シタル個人ニ付テハ昭和十八年分ノ所得稅第四期分及營業稅第二期分ヨリ所得稅及營業稅ヲ輕減又ハ免除ス



第十三條 臨時租稅措置法第一條ノ二十二又ハ第一條ノ二十五ノ改正規定ニ依リ新ニ控除ヲ受クルコトヲ得ルニ至リタル者第一條ノ五十九又ハ第一條ノ六十三ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスルトキハ昭和十九年四月二十日迄ニ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第十四條 昭和十八年十月一日以後昭和十九年三月三十一日以前ニ終了シタル事業年度分ニ付第一條ノ七十九ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ノ第一條ノ八十二規定スル申請書ハ昭和十九年五月十五日迄ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

昭和十九年分所得稅、營業稅及臨時利得稅ニ付第一條ノ七十九ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル個人ノ第一條ノ八十二規定スル申請書ハ昭和十九年四月二十日迄ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第十五條 昭和十九年四月一日以前ニ支出シタル寄附金ノ昭和十七年大藏省令第十一號附則第七條第二項ノ申請ハ仍從前ノ例ニ依ル

第十六條 昭和十七年二月大藏省告示第九十四號及同年五月大藏省告示第二百三十三號ハ之ヲ廢止ス別表

- 一 金屬鑛業
- 二 石炭鑛業
- 三 石油鑛業
- 四 石棉鑛業
- 五 製鐵業
- 六 非鐵金屬製鍊業

- 七 輕金屬製造業
- 八 型打鍛工品製造業
- 九 造船業
- 十 蒸汽機製造業
- 十一 原動機製造業
- 十二 電氣機械器具製造業但シ家庭用電氣器具製造業ヲ除ク
- 十三 無線電信電話機械器具製造業但シ家庭用ラヂオ用具製造業ヲ除ク
- 十四 採鑛、撰鑛及製鍊機械器具製造業
- 十五 製鐵業用機械器具製造業
- 十六 金屬工機械製造業
- 十七 工具及刀具類製造業
- 十八 化學工業用機械裝置製造業
- 十九 計器製造業但シ寒暖計及晷溫計製造業ヲ除ク
- 二十 光學機械器具製造業
- 二十一 自動車及同部分品製造業但シ小型自動車及同部分品製造業ヲ除ク
- 二十二 鐵道用及軌道用車輛製造業
- 二十三 航空機(滑空機及輕飛行機ヲ含ム)及同部分品製造業
- 二十四 軸受及鋼球製造業

臨時租稅措置法施行規則



- 二十五 兵器及同部分品製造業
- 二十六 光學硝子塊製造業
- 二十七 硫酸製造業但シ乾式製鍊所ヨリ排棄セラルル鑛煙中ノ亞硫酸瓦斯ヲ回收シテ製造スルモノニ限ル
- 二十八 硝酸製造業
- 二十九 硝安製造業
- 三十 硝酸ソーダ製造業
- 三十一 化學肥料製造業
- 三十二 製鹽業
- 三十三 酸素製造業
- 三十四 水晶石及弗化アルミニウム製造業
- 三十五 コールタール分溜物製造業
- 三十六 石炭酸製造業
- 三十七 染料中間物其ノ他コールタール分溜物誘導體製造業
- 三十八 靛劑製造業
- 三十九 合成メタノール製造業
- 四十 オタノール製造業
- 四十一 人造ゴム製造業
- 四十二 ビツチコークス製造業

- 四十三 電極製造業
- 四十四 カーボンブラツク製造業
- 四十五 代用燃料製造業
- 四十六 火藥及爆藥製造業
- 四十七 パルプ製造業
- 四十八 石油精製業
- 四十九 人造石油製造業
- 五十 海運業



昭和十九年七月二十日印刷  
昭和十九年七月二十五日發行

大阪府商工經濟會  
大阪府商工經濟會內

發行人 野末貞二  
大阪市福島區上福島南三丁目二六二

印刷人 中島政藏  
大阪市福島區上福島南三丁目二六二

印刷所 中島印刷工場  
大阪市北區堂島四町一番地

發行所 大阪府商工經濟會

電話號碼自二五二至二五七  
新橋口座大阪八六九〇番



987  
131



